

調査番号	3	分野名	鳥獣	予算区分	国庫・県単
調査名	外来種の防除に関する研究 〔生息情報の効率的な分析方法の検討〕				
担当者名	高橋 安則・丸山 哲也		調査期間	平成 22～26 年度	

目的

生息密度が低い地域でアライグマを排除するためには、農業被害等が顕在化する前に、アライグマの生息状況を把握する必要があるが、外来種のアライグマは生息分布が散在しており、生息状況の把握が困難である。そこで、県民や狩猟者からの目撃等の情報や有害捕獲による位置情報を速やかに防除対策に活かせる仕組みを構築するため、GISによる効率的な分析手法を試み、その有効性や課題を抽出する。

方法

生息情報は、県民や行政職員から目撃情報や死体発見情報を随時収集した。また、狩猟登録者に目撃アンケートを配布し、各年の猟期までの1年以内の目撃情報をその位置や環境を記入いただき回収した。得られた情報は表計算ソフトでデータベース化したものをGISソフトにインポートできるように加工した。GISでは、課題に対応した主題図を作成し、必要に応じてGIS上と表計算ソフト上で解析を行った。

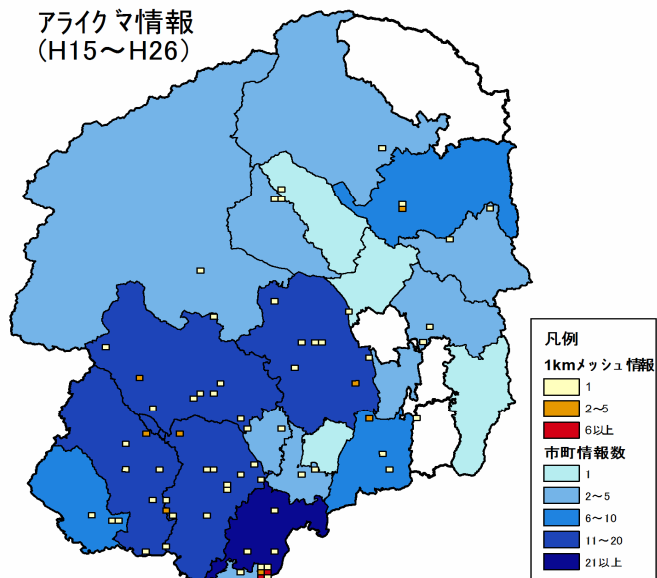
①生息情報のマップ化

平成15年度から26年度の生息情報を市町毎、3次メッシュ毎にマップ化し、面的・視覚的に把握できるようにした。

②標高階毎の情報数の把握

GIS上で標高データを属性値として有する3次メッシュとアライグマの生息情報を有する3次メッシュとを重ねることにより、アライグマの生息情報と標高データを結合させて標高階別のアライグマの捕獲、死体、目撃等の情報をグラフ化した。

アライグマ情報
(H15～H26)



結果概要

①生息情報のマップ化

GIS上でマッピングすることによりアライグマの生息情報は県南西部、とりわけ小山市で最も多いことが面的に把握することができ、本県におけるアライグマは進入初期段階から生息拡大段階に移行していることが確認できた。

②標高階毎の情報数の把握

GISによる空間解析により本県のアライグマの生息情報は標高200m以下でほとんどが収集されていることが明らかになった。また、標高200m以上では目撃情報はあるものの捕獲が行われていなかった。

今回の分析では、既存のデータとして標高データのみを活用したが、土地利用等既存の国土情報を活用することにより、より効果的な分析が可能になると思われた。

図1 アライグマの生息情報

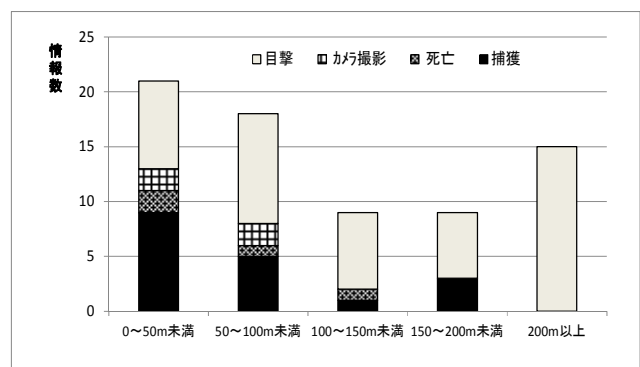


図2 標高階毎のアライグマの生息情報